

2018年11月26日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

エピゲノム解析ベンチャーRhelixa（レリクサ）と連携

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（代表取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」）とエピゲノム（※）情報の統合解析プラットフォームを開発する株式会社 Rhelixa（代表取締役：仲木 竜、本社：東京都千代田区、以下「Rhelixa」）は、10月15日付で、認知症をはじめとする介護・ヘルスケア分野におけるさまざまな社会課題の解決に向けたソリューション・サービスの開発に係る調査・研究に連携して取り組むことに合意しました。

また、損保ジャパン日本興亜のグループ持株会社であるSOMPOホールディングス株式会社（グループCEO取締役社長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）は、Rhelixa が実施する第三者割当を引き受けることにより出資を行いました。

※エピゲノム：ゲノムそのものではなく、生活習慣等で後天的にゲノム上に付けられる化学修飾（メチル化やアセチル化等）の状態を指します。（末尾の参考説明参照）

1. 背景と目的

- ・損保ジャパン日本興亜は、テクノロジーの急速な進化に伴う産業構造の変化を見据え、さまざまな社会課題を解決する新事業創造に向け、優れた研究開発機関・企業・ベンチャーとの提携・投資・人材交流を通して、保険の枠組みにとらわれることなく、安心・安全・健康の領域で、社会的課題の解決につながるような事業にチャレンジしています。
- ・Rhelixa は、毎日の暮らしから産業まで、あらゆる場面で生命情報が活用される社会を実現するために、エピゲノム情報に基づく独自の検査・解析技術を開発しています。Rhelixa が提供するエピゲノム解析は、人をはじめとするあらゆる生命の健康や疾患の状態を細胞レベルで把握することができる最先端かつ高度な技術であり、超高齢化社会における社会課題の解決に活用できるものと期待されています。
- ・このたび損保ジャパン日本興亜は、バイオサイエンス領域における新たな技術で世界にインパクトを与えるテクノロジーベンチャーの成長をサポートし、介護・ヘルスケア分野でのさまざまな社会課題の解決に向けたソリューション・サービスの開発に共同で取り組むことを目的として、Rhelixa との連携に至りました。

2. 今後について

損保ジャパン日本興亜と Rhelixa は、SOMPOホールディングスグループが積極的に取り組む認知症の分野で、潜在的バイオマーカーや認知症に影響を及ぼす外部環境因子の特定に向けた調査・研究をするなど、さまざまな社会課題の解決に向けたソリューション・サービスの開発に共同で取り組んでいきます。

【参考】 Rhelixa について

(1) 会社名	株式会社 Rhelixa
(2) 事業内容	エピゲノム解析技術を応用した研究開発サポート、ソフトウェアや検査技術の開発および販売
(3) 設立年月日	2015年2月
(4) 本社所在地	東京都千代田区岩本町3-7-4
(5) 代表者	代表取締役 仲木 竜
(6) 資本金	1億6,400万円

【参考】 エピゲノムについて

生物の設計図である遺伝子は、DNA に含まれる塩基という物質の並び順で規定されています。この塩基配列の情報は「ゲノム」と呼ばれ、生まれつき決まっています。しかし、遺伝子そのものは変化しなくても、遺伝子の使われ方は細胞の種類や環境に応じて後天的に変化します。このように、塩基配列は変化させずに、遺伝子の使われ方を調節する仕組みを「エピジェネティクス」と呼び、「エピジェネティクス」を規定する情報を総称して「エピゲノム」と呼びます。

「ゲノム」そのものではなく、生活習慣等で後天的に「ゲノム」上に付けられる化学修飾（メチル化やアセチル化等）の状態が「エピゲノム」の正体です。多くの病気は、生活習慣などに起因する「エピゲノム」の異常が蓄積することで発症すると考えられています。「エピゲノム」の状態を詳しく調べることにより、さまざまな病気の発症メカニズムや進行（改善）の度合いを把握することが期待できます。また、「エピジェネティクス」はヒト以外の生物にも見られる仕組みであるため、ペットのヘルスケアや、農林・畜産・水産業といったさまざまな分野に関わっています。

以上